

令和4年度

昭島市立玉川小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)中間報告

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	ビジョン	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがいのある学校　・教職員にとって働きがいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童　・創造性に富んだ児童　・人間として調和のとれた児童
			【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師　・創造性に富んだ教師　・チームを意識した協調性のある教師　・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、主体的に学びに向かう力を育成する。	自らの考えを広げ深める対話的な学びを工夫する。	体育の授業改善を中心に、学び合いの授業を実践する。	4 1 学び合い活動等の交流…80%以上の授業 3 2 学び合い活動等の交流…70%以上の授業 2 1 学び合い活動等の交流…60%以上の授業 1 1 学び合い活動等の交流…60%未満の授業	3	4 1 学習定着度75%以上…90%以上の児童 3 2 学習定着度75%以上…80%以上の児童 2 1 学習定着度75%以上…70%以上の児童 1 1 学習定着度75%以上…70%未満の児童	3	体育の少人数講師を活用して、学び合いの活動を増やし、一人一人に合った個別最適化された学習を目指して日々改善しながら授業を行っている。	個別での課題解決だけでなく、ペア、小グループ、全体などの学び合いの形態も必ず活用する。
		児童向け資料「家庭学習の進め方」を活用し、家庭学習の充実を図る。	年3回の家庭学習強化月間を通して、家庭学習の習慣付けを図る。	4 1 強化月間中の家庭学習の提出率…90%以上の児童 3 2 強化月間中の家庭学習の提出率…80%以上の児童 2 1 強化月間中の家庭学習の提出率…70%以上の児童 1 1 強化月間中の家庭学習の提出率…70%未満の児童	3	4 1 学習定着度75%以上…90%以上の児童 3 2 学習定着度75%以上…80%以上の児童 2 1 学習定着度75%以上…70%以上の児童 1 1 学習定着度75%以上…70%未満の児童	3	家庭学習強化月間において、チャレンジカードを作成、学期ごとに活用して家庭学習への児童の取り組みの習慣化を目指している。	家庭学習の内容を自発的に選択できるように学習の種類や方法を提示する。
		児童にやさしい教室環境、学習環境、授業を工夫・改善する。	玉小スタンダードに基づき、教室環境や学習環境、授業の進め方を整える。	4 1 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員 3 2 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員 2 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 1 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員	2	4 1 授業が分かりやすい…95%以上の児童 3 2 授業が分かりやすい…90%以上の児童 2 1 授業が分かりやすい…80%以上の児童 1 1 授業が分かりやすい…80%未満の児童	2	授業において課題やまとめを黒板に提示することで児童に本時の学習の目標がきちんと伝わるようにしている。	今後授業の流れを掲示しより見通しをもった学習ができるようにする。
豊かな心	道徳教育の充実・推進を図り、規範意識、社会参画意識を養い、自己有用感を育成する。	道徳授業地区公開講座を中心として組織的に道徳教育に取り組む。	道徳教育推進教師を中心に授業改善を進めより良く生きるための道徳性を養う。	4 1 考え、議論する道徳授業の実施…95%以上の教員 3 2 考え、議論する道徳授業の実施…90%以上の教員 2 1 考え、議論する道徳授業の実施…80%以上の教員 1 1 考え、議論する道徳授業の実施…80%未満の教員	2	4 1 社会通念上のいじめ…0件 3 2 社会通念上のいじめ…1件から5件 2 1 社会通念上のいじめ…6件から10件 1 1 社会通念上のいじめ…11件以上	3	道徳授業において児童同士が自分の考えを共有し様々な意見があることを知り、相手への理解を深めさせている。	1月の道徳授業地区公開講座を通して、より一層道徳性の涵養に努める。
		「玉川小のやくそく」を継続的に発信し続け、定着を図る。	全教員が共通理解を深め、生活・授業規律を徹底する。	4 1 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員 3 2 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員 2 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員 1 1 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員	3	4 1 安心して生活できている…95%以上の児童 3 2 安心して生活できている…90%以上の児童 2 1 安心して生活できている…80%以上の児童 1 1 安心して生活できている…80%未満の児童	3	多くの教員が「玉川小のやくそく」をきちんと児童に指導し、安心して生活できていると回答した児童が多くなっている。	「玉川小のやくそく」の意義を学年の発達段階に合わせて指導する。
		自己有用感を高めさせるために、特別活動の充実を図る。	縦割り班活動を通して、自主的、実践的に集団行動する態度を育成する。	4 1 集団としての活動が楽しめた児童…90%以上 3 2 集団としての活動が楽しめた児童…80%以上 2 1 集団としての活動が楽しめた児童…70%以上 1 1 集団としての活動が楽しめた児童…70%未満	3	4 1 楽しく学校生活を送っている…95%以上の児童 3 2 楽しく学校生活を送っている…90%以上の児童 2 1 楽しく学校生活を送っている…80%以上の児童 1 1 楽しく学校生活を送っている…80%未満の児童	3	6年生をリーダーとした縦割り班活動が始まり、異学年での交流遊びを行った。6年生が意欲的に遊びを計画し、楽しく活動することができている。	どの学年も楽しめる活動にし、より学校生活が楽しみになるようにする。
健やかな体	体育の授業改善とともに、日常的な運動習慣を定着させ、運動に親しむ資質や能力を育成する。	体力調査結果を検証・活用し、体育旬間を改善する。	体育旬間の年間指導計画を立て、ねらいを明確にして実施する。	4 1 体育旬間の活動に取り組んだ児童…90%以上 3 2 体育旬間の活動に取り組んだ児童…80%以上 2 1 体育旬間の活動に取り組んだ児童…70%以上 1 1 体育旬間の活動に取り組んだ児童…70%未満	3	4 1 遊んだり体を動かしたりしている…95%以上の児童 3 2 遊んだり体を動かしたりしている…90%以上の児童 2 1 遊んだり体を動かしたりしている…80%以上の児童 1 1 遊んだり体を動かしたりしている…80%未満の児童	3	晴れた日には沢山の児童がすすんで外遊びをしている。今後体育旬間の取組を成功させ、更なる体力向上へつなげていく。	体育旬間で持久走や短縄跳びに学校全体で取り組み、
		生活指導部を中心に、安全に配慮した学校運営を行う。	危険察知能力を高めさせるために、計画的かつ系統的に安全に関する指導を行う。	4 1 安全に関する指導の実施回数…20回以上 3 2 安全に関する指導の実施回数…15回以上 2 1 安全に関する指導の実施回数…11回以上 1 1 安全に関する指導の実施回数…11回未満	2	4 1 安全や健康についての知識を生かす…95%以上の児童 3 2 安全や健康についての知識を生かす…90%以上の児童 2 1 安全や健康についての知識を生かす…80%以上の児童 1 1 安全や健康についての知識を生かす…80%未満の児童	2	1学期に学校管理下での事故が複数あった。安全教育プログラムでの研修を常時夕会で行った。事故発生時の対応訓練を夏季休業中に実施したりして改善に努めている。	生活指導夕会で安全教育プログラムを活用し、全職員で研修をする。
		自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元気アップガイドブックを活用し、運動や健康の大切さについての意識の向上を図る。	4 1 元気アップガイドブックの活用…9回以上 3 2 元気アップガイドブックの活用…6回以上 2 1 元気アップガイドブックの活用…3回以上 1 1 元気アップガイドブックの活用…3回未満	3	4 1 食事や栄養についての知識を生かす…95%以上の児童 3 2 食事や栄養についての知識を生かす…90%以上の児童 2 1 食事や栄養についての知識を生かす…80%以上の児童 1 1 食事や栄養についての知識を生かす…80%未満の児童	2	元気アップガイドブックの活用を増やしていくとともに、食事や栄養だけでなく、睡眠についても指導する必要性を感じている。	GM60を活用して児童自らに生活を見直していくよう指導する。
輝く未来	日本の伝統文化理解と継承を図り、多様な文化の尊重と国際理解・協力の態度を育成する。	伝統文化に関する理解を深め、多様な文化を受け入れる態度を育てる。	外部人材等を活用した伝統文化に関する授業を実践し、多様な文化を受け入れる態度を育てる。	4 1 外部人材等を活用した伝統文化の授業…全学年 3 2 外部人材等を活用した伝統文化の授業…五つの学年 2 1 外部人材等を活用した伝統文化の授業…四つの学年 1 1 外部人材等を活用した伝統文化の授業…三つの学年	1	4 1 自分や友達を大切にしている…95%以上の児童 3 2 自分や友達を大切にしている…90%以上の児童 2 1 自分や友達を大切にしている…80%以上の児童 1 1 自分や友達を大切にしている…80%未満の児童	2	感染症対策のため、外部人材の児童への直接指導の機会が少ない。リモートなどを活用して外部人材の活用を進めている。	自分も相手も大切にして、多様なものを受け入れることができる態度を更に育てていく。
		心のバリアフリーを浸透させ、多様性を尊重する態度を育てる。	特別支援教育巡回指導員、または指導教諭による特別支援教育の理解学習を実施し、多様性を尊重する態度を育てる。	4 1 理解学習の実施…全学年 3 2 理解学習の実施…五つの学年 2 1 理解学習の実施…四つの学年 1 1 理解学習の実施…三つの学年	2	4 1 思いやりの心をもって行動している…95%以上の児童 3 2 思いやりの心をもって行動している…90%以上の児童 2 1 思いやりの心をもって行動している…80%以上の児童 1 1 思いやりの心をもって行動している…80%未満の児童	3	教員への特別支援教育の研修は巡回指導員や法務少年支援センターの方を講師に迎え2回行うことができた。	3回目の研修会を茨城大学名誉教授の岸良範先生を講師に10月に実施予定。
		小中連携した児童の育成を図る。	自身の成長や変容に気付くことができるようにキャリア・パスポートの活用を図る。	4 1 キャリア・パスポートの活用…4回以上 3 2 キャリア・パスポートの活用…3回以上 2 1 キャリア・パスポートの活用…2回以上 1 1 キャリア・パスポートの活用…1回未満	2	4 1 自分の将来について考える…95%以上の児童 3 2 自分の将来について考える…90%以上の児童 2 1 自分の将来について考える…80%以上の児童 1 1 自分の将来について考える…80%未満の児童	2	1学期始めと末にキャリアパスポートを活用して児童に自分自身を見つめさせる取組を行った。	今の自分を振り返ることのできる場面を増やしていく。